



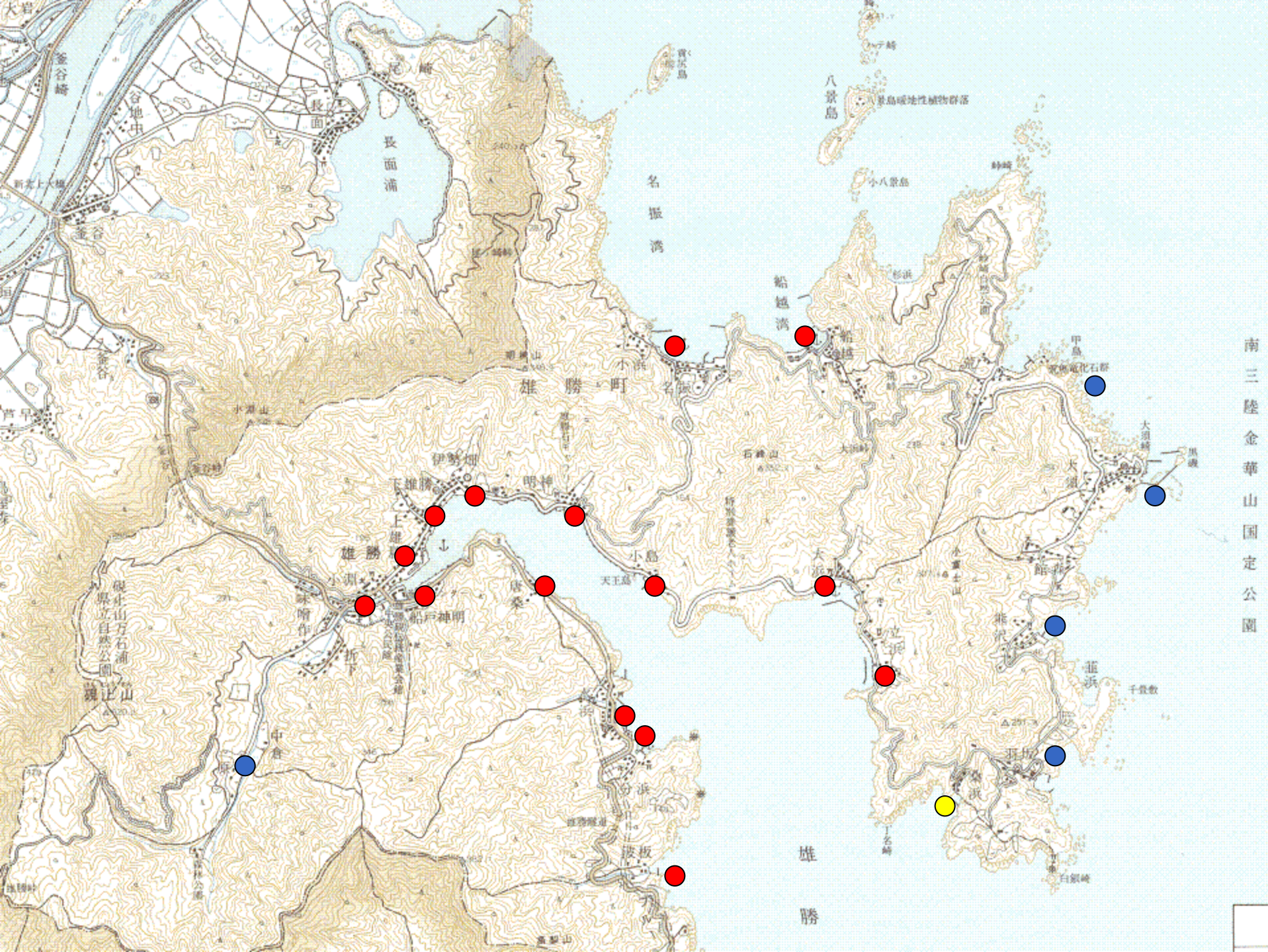
# 石巻市雄勝総合支所における 震災後の保健活動

石巻市雄勝総合支所 保健福祉課 門間千詠子

## 石巻市雄勝地区について

- 宮城県北東部、大平洋に面する地区で、平成17年に4月に石巻市・河北町・雄勝町・河南町・桃生町。北上町・牡鹿町と合併し現在の石巻市となる。
- 雄勝地区の面積の80%以上は山林をしめる。
- リアス式海岸の地形のため、平坦な土地が少ない。
- 人口4, 336人
- 世帯数 1, 637世帯（平成23年2月末現在）
  
- 合併後の保健システムは、各総合支所独自のものから、支所をブロック化し合同で事業を行うようになる。（乳幼児健診など）
  
- 発災直後はライフラインが寸断され、市内の被災地区が甚大なため、支持や連携ができず、支所独自の活動となる。





南三陸金華山国定公園

雄勝

## 雄勝地区の被災状況

- 人的被害状況
  - ①死亡確認者 144名
  - ②行方不明者 92名
  - 合計 237名
- 家屋被害状況
  - ①全壊、流出 1304棟 (79.7%)
  - ②大規模半壊 19棟 (1.2%)
  - ③半壊 77棟 (4.7%)
  - ④一部位損壊 67棟 (4.1%)
  - 合計 1467棟 (89.6%)
- 中心部の雄勝地区内にあった行政機関、病院、銀行、金融機関、小中学校、保育所、ガソリンスタンドやスーパーマーケットなど生活に関係する施設のほとんどが全壊、流出。
- 避難所開設状況
  - ①避難所数 23箇所 (最大ピーク時3/15)
  - ②避難者数 2163人 (最大ピーク時3/15)





## 雄勝総合支所における震災後の医療活動

- 保健師が直接避難所に配置されず医療班として避難所の健康調査、医療チームの調整などを行う
- 3月19日～5月15日 石巻圏合同救護チームによる避難所巡回医療を実施
- 5月19日 支所を移し、救護所を開設
- 巡回診療と救護所での固定診療開始
- 同時に雄勝病院看護師チームに医療チームの調整役を移行
- 9月30日 救護所閉所(述べ92チームからの支援)
- 10月6日 石巻市雄勝診療所開所
- 各科(歯科・耳鼻科・眼科)医療機関支援の調整



## 救護活動内での課題

- 石巻市内の医療機関までが1時間かかる
- 石巻市内で開所されている医療機関までの交通手段がない
- 患者の多くは慢性疾患を持つ方
- ほとんどが薬の流出し、自分が処方されている内服薬の名前も知らない状態
- 薬の重複処方(薬が届くまでの時間がかかり、別のチームに見てもらおう方が出てきた)
- 巡回診療では、十分な検査、診断がつきにくい
- 医師が毎回変わる



## 課題から見えてきたもの

- 石巻圏域合同救護チームによる避難所巡回診療
- カルテの統一
- バイク便の活用
- 避難所巡回診療と救護所での固定診療を実施
- 救護所での検査機器の準備
- 仮設診療所開設に向けての準備
- 医師が確保されない状態での医療機器準備等
- 看護師は行政職ではないため、行政職である保健師が診療所準備等を行わざる終えなかったが、保健所等にアドバイスをもらう必要があったのでは・・・



# 雄勝総合支所における震災後の保健活動

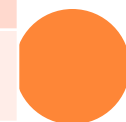
- 発災4日目からの避難所健康調査実施(ケースの調整)
- 4月12日～5月7日  
他県保健師による避難所健康調査実施(948名)
- 7月6日～9月16日  
他県保健師による仮設住宅健康調査実施(8か所215世)
- 東北大学医学部地域保健支援センターの支援による被災者健康診査(未成年調査)実施(4回)
- 東日本大震災こころのケアチームの支援による、相談、訪問調整(週1回)
- 要介護認定者のサービス事業者の選定
- 災害業務に加え通常業務が加わり、課題が発生する





# 被災後の保健師業務の問題点

高齢者・介護	認知症や寝たきりケース対応・介護予防教室準備開始・訪問リハビリ支援打ち合わせと開始 介護認定ケース:5月:21名・6月:13名・7月:17名・8月:11名・9月:15名 ☆ 事業所の選定やケアマネとの連携 ヘルパー事業所やデイサービス事業所の再開
成人保健	被災者健康診査準備と実施。特定健診・健診結果説明会 レクレーション事業開始:準備開始 保健師と栄養士による栄養・運動相談を雄勝地区仮設で実施 健康教室や相談のための会場がない、他の団体との業務打ち合わせの増 ☆ 他団体からの支援を受け教室再開
栄養	巡回栄養調査実施(雄勝・河北の各避難所巡回)。食品担当者や被災者に食品に関する衛生指導を実施。乳幼児に関しては電話で離乳状況を確認し相談を実施 各避難所を回っての巡回栄養調査を実施し、食中毒注意喚起チラシ作製と配布 仮設住宅栄養教室実施 ☆ 東北大学の協力で仮設住宅栄養教室実施
精神保健	心のケアチーム、日本精神神経科診療所協会チーム、法務省精神保健チームの3つの団体による訪問ケースの調整 ケースの状況把握やフォローなどに追われ、フォロー終了後の確認等はできていない ☆ 各団体の協力でケースの状況が確認でき、適切なアドバイスをもらう
母子保健	母子手帳は他地区での再発行が多かった。7月から乳幼児健診を実施 新生児訪問開始 健診会場が被災し、会場の変更、健診機材やシステムの喪失、小児科医の不在による医師調整 保健師のマンパワー不足、対象者の流出や、親子のメンタルフォローが必要 ☆ 健診会場を変更し、健診機材の支援を受け再開、メンタルフォローの支援
難病・障害者	震災前:知的障害者:45名、身体障害者手帳:180名であったが、震災後知的障害者は雄勝外の仮設や住居に移転した。精神障害者手帳受給者内の3分の1は雄勝地区外に移動 ☆ 地域活動支援センターとの情報交換
歯科保健	東北大学歯科チームが定期的に巡回しその調整実施 その後ボランティア医師の定期歯科訪問開始 ☆ 平成24年6月1日より歯科診療所開所
感染予防	5月～10月まで避難所感染症サーベイランス実施



## 現在の被災者支援活動(雄勝)

- **市保健師の役割:** 全体的なコーディネート(障害、精神的に不安定な人、乳幼児健診フォローなど母子支援、ケース会議、エリア会議)
- **健康支援事業:** ○生活習慣病重症化予防   ○生活不活発病予防事業  
○栄養食生活支援事業   ○口腔ケア対策  
○こころのケア事業   ○乳幼児健診  
○子育て支援事業  
(健康教室・健康相談・家庭訪問事業・健康診査)
- 訪問支援員によるみ見守りへの支援
- 地域包括支援センターの指導・助言
- その他の関係機関: FTFによるリハビリテーション支援事業の調整

(月1回ささえあいミーティングを開催し情報の共有)

